

デジタルアーカイブ学会 第6回研究大会 企画セッション（サテライト）

4. アジア太平洋戦争関連資料の保全・継承とデジタルアーカイブ ～ プロジェクトの概要と成果イメージ

水島久光（東海大学；SIG戦争関連資料研究会主査）

2021.4.29



PowerPoint

本日のプログラム

15:00-15:20 プロジェクトの概要と成果イメージ
(水島久光)

15:20-15:40 事例（１）地域博物館における戦時資料
の収集と展示—大磯町郷土資料館の事例—
(富田三紗子)

15:40-16:00 事例（２）京丹後市史編纂と戦争関連
資料 (小山元孝)

16:00-16:15 ディスカッションと連携に向けた課題
(水島・富田・小山)

16:15-16:35 戦争関連資料をつなぐメタデータ共有シ
ステムの構想 (棕本・上松)

16:35-16:45 システムの実装課題
(水島・棕本・上松)

16:45-17:00 質疑応答 全体ディスカッション

プロジェクトの概要と成果イメージ（企画主旨より）

- 体験者がそれぞれの「記憶」を、「語る」という行為を介して次世代につなぐ「継承の時代」から、さまざまな「記録」にアクセスすることによって認識を深める「共有の時代」へ
- 戦後75年は、「戦争」に向ける歴史的眼差しにとって、大きな節目となるメモリアルイヤーでした。語り手の不在、資料の散逸、一つひとつの出来事に目線を合わせることの難しさが、私たちの前には立ちはだかっています。
- 戦争資料館や記憶・記録の伝承を掲げた組織・施設・活動、図書館や郷土資料館といった地域に根差した文化施設は、この「節目」をどう越えていこうとしているのでしょうか。戦後76年目の国内各地の動きを俯瞰しながら、未来にむけて「平和」を創造しつつしていくための条件について、考えてみたいと思います。

NHK BOOKS
1263

戦争をいかに語り継ぐか

「映像」と「証言」から考える戦後史

mizushima hisamitsu

水島久光



「記憶」から
「記録」へ
NHKブックス

問題意識から活動へ：SIG「戦争関連資料研究会」の設置

“「記憶」から「記録」”にシフトしていくことは可能なのか



『クローズアップ現代+ 戦後75年
なぜ？閉鎖相次ぐ資料館』（2020年
7月30日）「受け入れを断る」「集めた
遺品や証言が活かせない」
[https://www.nhk.or.jp/gendai/
articles/4448/](https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/4448/)

NHKニュース（2020年8月18日特
集）でも「全国の平和資料館 4割近く
が財政的苦境」「今までとは違う方法を
考える必要」
[https://www3.nhk.or.jp/new
s/html/20200818/k1001257
2871000.html](https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200818/k10012572871000.html)

実態がつかめない⇒そのアプローチは？

課題がつかめない⇒整理する視点は？

デジタルアーカイブの知見により、解決に寄
与する方法はないか？



2020年10月17日；第5回大会で
SIG「呼びかけ」

2020年11月、12月キックオフミーティング
+プレ調査

2020年2月～ メンバーミーティング

作業仮説

プレ調査～目標設定

戦争関連資料を扱う**主体**の「山」と「関係性」を捕捉する

先行調査、公開情報の分析（主体の**課題**意識の整理）

Dublin Coreをひな形としたメタデータスキーマの構想（ソリューション）



全国に遍在する「資料」の所在と扱う「主体」間の関係を可視化させたい



共通のメタデータスキーマを用いた仮想的なデジタルアーカイブ（データ連携～支援策）の構築

仮説構築：「目録」への注目

「目録」＝仮想デジタルアーカイブの核：Contributor（寄与者）

「目録種別」「受入種別」「資料種別（物性／意味）」の定義づけ

「施設」「団体」の各々働きの活性化・連携を促す施策への結びつけ



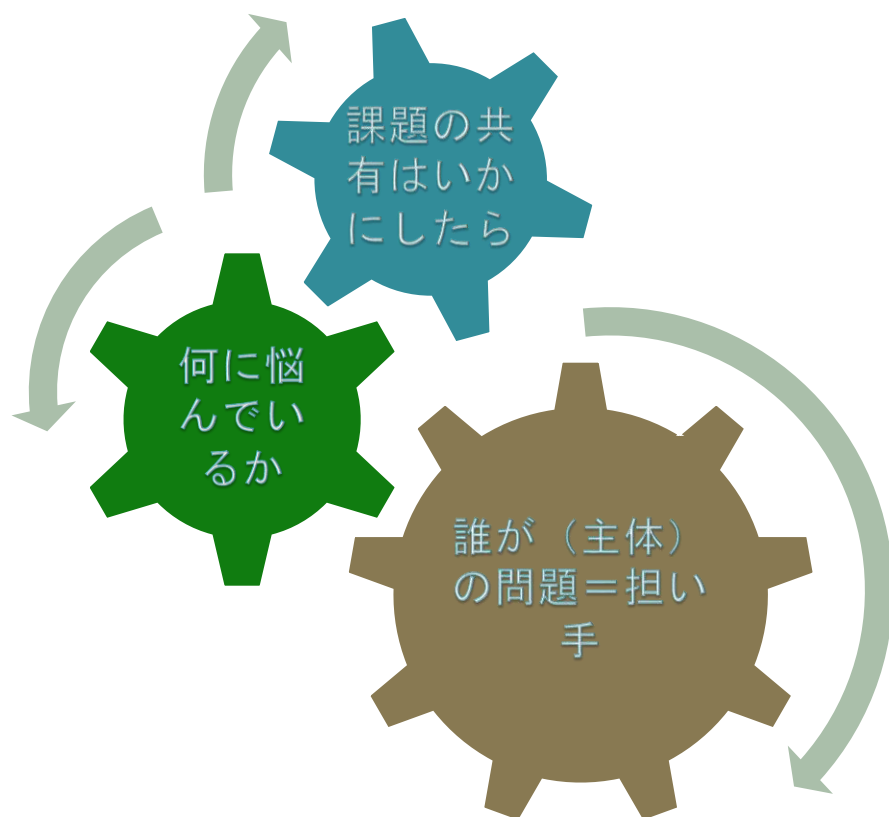
＜まずは「目録の入手」と「取材」＞ 1～3月

東京近郊資料館（戦争専門資料館／郷土資料館）のパイロット調査

図書館総合展を機会に雑誌『LRG』と共同でアンケート・取材

SIGメンバーのケーススタディを中心にコンタクト～課題の抽出

作業仮説



<課題の明確化（先行調査より）>

保存スペースの問題

遺品の劣化・状態維持の問題

類似資料（重複）・収蔵品の分野の問題

遺品と情報の紐付けの問題

整理作業（人手がみつからない）の問題

個人情報扱いの問題

価値判断・評価の困難さの問題

展示企画の合意形成の問題

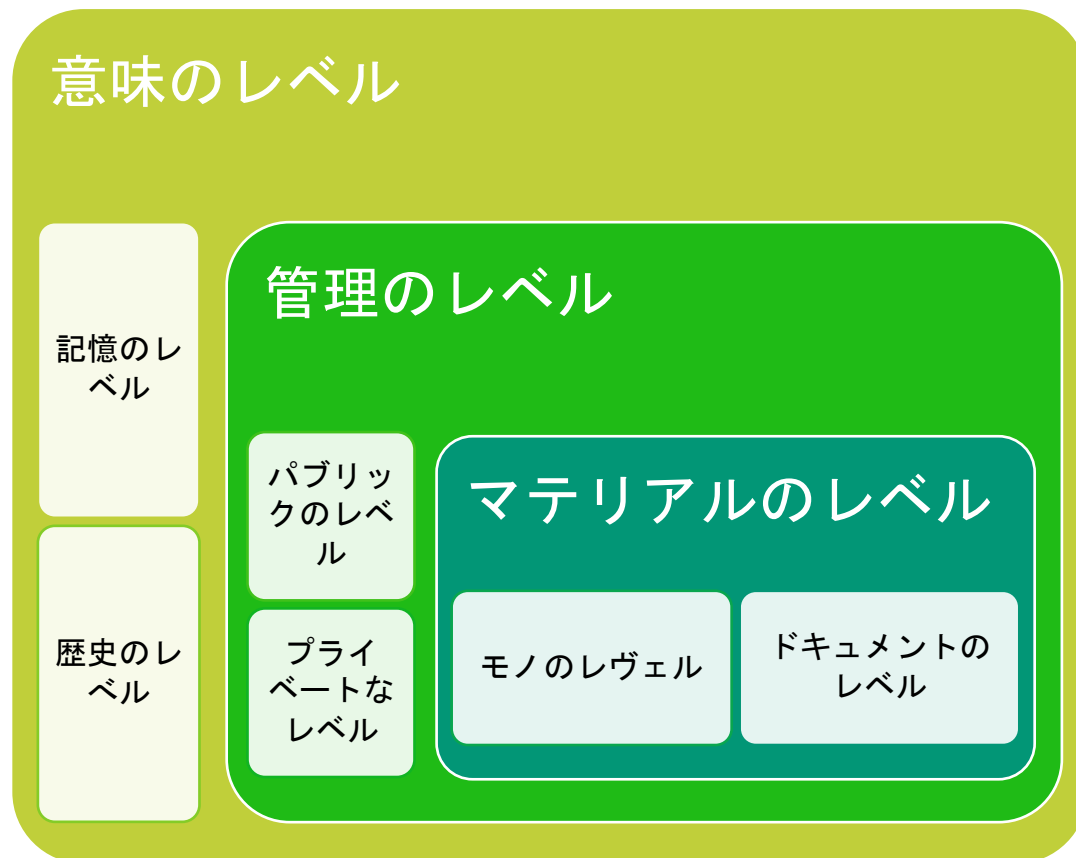
物理

情報

活用

そもそも「戦争関連資料」とは何なのか…という問い

「フレーム」を取り払う → 「フレーム」を支えるものに光を当てる



マテリアルのレベル

- ・モノ : いか「戦争」が刻印されているか/極端例としての「被災物」
- ・ドキュメント : 公文書・広報物～私文書、エゴ・ドキュメントの広がり/時差資料（回想、二次資料）

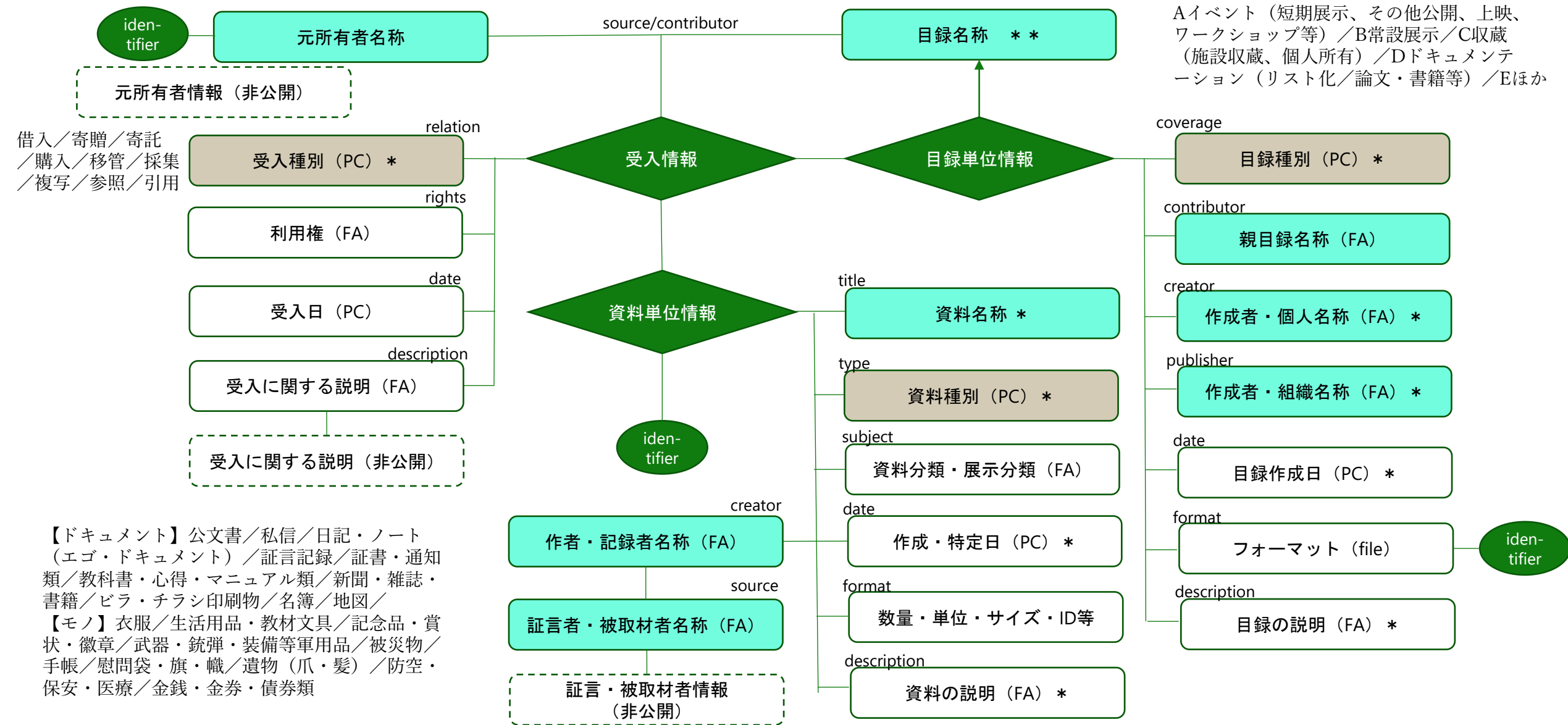
管理のレベル

- ・パブリック : 図書館、博物館、公文書館（一般資料からの抽出/配置）/他機関との連携（対象の拡張）
- ・プライベート : 目的性、文脈性/団体・組織・公的機関との関係

意味のレベル

- ・記憶 : 経験・出来事・地域等を中心に（concentrical）
- ・歴史 : 起点・終点・分節点を定める（chronological）

メタデータ・スキーマ（試案：2月末段階）→システム設計へ



4～8月の課題

[網羅的調査の実施]NHKスペシャル取材班との共同調査 第一次(4月) 第二次(5月)

5月以降のSIG「戦争関連資料研究会」のToDo

➡ 「レベル」を組み合わせ、データ作成テスト

➡ 左記共同調査の結果報告

2021年8月下旬刊行

『ライブラリー・リソース・ガイド(LRG)』
で特集

1. 貴館が収蔵する戦争関連資料についてのテーマ、または分野の特色があれば教えてください。

例：学校資料や教師の日記など教育関係…など。または空襲、学徒動員、化学戦、兵事資料…など

(教師の日記、従軍者の書簡、戦時中の書簡、戦時中の美術作品、戦後通信の現状)

2. 収蔵する日記など個人の戦争関連資料について 下記の年代ごとに分かる範囲でお答えください。

あてはまるものに☑を入れ、その主な内容をお書きください。

例：小学生による日記 100冊程度、昭和30年代に空襲被害を○人が語ったテープ10本程度…など

<日中戦争期以前 ～1940年に書かれた／記録されたもの>

☑日記 (戦前日記、日記、手記、数冊 (年々不明も含む))

☑手紙 (戦時中、教師、ヤサシ、10通程度 (整理中)、家族、ヤサシ)

☐回想録 ()

☐映像 ()

☐音声 ()

☑写真 (生活、戦時、風景等)

☐その他 (近世、戦時、大戦画)

<太平洋戦争期 1941～1945年に書かれた／記録されたもの>

☑日記 (日記、手記、数冊 (年々不明も含む))

☑手紙 (友人、ヤサシ、ヤサシ など)

☐回想録 ()

☐映像 ()

☐音声 ()

☑写真 (家族写真)

6-2. その「目録」の公開はなされていますか。→ ☒ はい / いいえ

具体的な方法について、可能な範囲でお答えください。

企画展の会場に設置、自由に持ち帰れるようにしている。

7. 日中戦争・アジア太平洋戦争を含む15年戦争期の資料に関して、そちらの施設で問題となっていることがあれば○をつけ、具体的な課題をお聞かせください。

() 保存・収蔵スペースが足りない

() 資料・遺品の劣化・状態維持が難しい

() 類似資料(重複)が多い

() 収蔵資料の分野が施設の管轄外

() 遺品を説明する付帯情報が不明、または紐付けが難しい

() 整理作業に関する人手が足りない

() 展示・公開に際して個人情報の扱いが悩ましい

() 何を展示すべきか価値判断・評価が難しい

() 展示企画そのものの合意形成の問題

具体的な課題

・資料の総数に対して展示スペースが狭い。

・展示出来ずに保管している資料がある。